

経胸壁心臓超音波における左室内径計測方法の検討

【背景】

左室内径計測法は ASE ガイドラインにおいて、傍胸骨左室長軸に直交し、かつ僧帽弁接合部の直下を通る線上で左室径をすること、また計測部位が明瞭となるビーム方向に直交する断面で計測することを推奨している。このガイドラインには計測部位が明瞭に示されており、これに沿った計測を行えば検者間の良好な信頼性が得られると考えられる。しかしながら、一般的に施行されている従来法とは計測箇所が大きく異なる。また、高齢者に認める S 字状中隔症例においては、ガイドラインに沿った計測方法が困難であり、検者内および検者間での信頼性の低下が懸念される。これまで、従来法との計測差異を詳細に検討した報告も見かけない。

以上より、従来の 2 次元経胸壁心エコーを用いて、各種の左室内径計測方法を比較検討し、その計測精度を向上させる手順を考案することは非常に有用である。

【目的】

左室内径計測法は ASE ガイドラインで提唱されてはいるが、一般的に施行されている従来法とは計測箇所が大きく異なる。また従来法との計測差異を詳細に検討した報告も見かけない。今回、疾患別による左室内径計測方法を比較し、検者間誤差や検者内再現性を検討する。

【対象】

近畿大学奈良病院で、超音波検査室にて経胸壁心エコーを行った患者とする。

【検討期間】

2019 年 10 月 1 日～2020 年 10 月 1 日までとする。

【方法】

経胸壁心エコーにおいて、左室内径計測法として従来法に加え、ガイドラインで提唱される方法を用いて評価を行うこととする。

【予想される結果】

経胸壁心エコーにおける左室内径計測において、最適な計測箇所を検討することで、その検者間・検者内再現性または計測精度が向上し、正確な左室内径計測を行うことが可能となる。

【個人情報について】

お名前・生年月日・住所など個人情報に関わるデータは一切使用いたしません。本研究は、僧帽弁手術の際必ず行う経胸壁心エコー検査において実施するものです。検査手順の追加になりますが、通常検査に比べて検査時間が大きく遅延するなど、患者さまに不利益となることは一切ありません。本研究へのデータ提供を拒否される意思が示された場合、直ちにデータ利用を停止いたします。

【問い合わせ先:】

近畿大学医学部奈良病院 臨床検査部 竹村盛二郎, 齊藤 冬見, 村上 愛, 小谷敦志
TEL:0743-77-0880 FAX:0743-77-0890 内線:3073